

## ★Highlight of GIRLS★

この夏、岐阜女子高校は全国大会で決勝の舞台にいた。惜しくも4点差での準優勝となる。平成27年度の女子の戦いは岐阜県にとっても歴史的なものとなるだろう。

幾多のドラマを展開してきた選抜大会。1971年の第1回大会開催から早46回目。1988年に春から現在の冬開催に変更され、高校3年生に出場資格がある最後の大会となるとともに、1990年に出場枠が大幅に増加し、各都道府県予選を勝ち抜いた男女各48校が参加できるようになった。そしてその頃から「ウインターカップ」と呼ばれるようになった。そして2009年の第40回記念大会からインターハイ優勝校・準優勝校にシード権が与えられるようになった。つまり今年の子の選抜大会岐阜県代表は2校出場できるということだ。岐阜で熱い戦いをし、全国につながる岐阜勢の活躍を期待する。

# A

ブロックの大本命は、第1シードの県岐阜商高だ。過去にさかのぼると、なんとインターハイ予選12回、選抜大会7回の合計19回の準優勝で悔し涙を流してきている。悲願の全国大会出場を狙う。キャプテンとしてチームをまとめている#4 神田(各中央中)を筆頭に、鍛え上げられた脚力で堅実なディフェンスが武器の#6 所(北方中)、ドライブとジャンプシュートが得意な#5 沼田(北方中)、怪我から復帰をし、パワープレー全開で勝負する#8 田神(高富中)らが活躍し、夢の全国大会出場の切符を獲得できるか、楽しみである。そこへ待ったをかけたいのが、中濃地区2位的美濃加茂高と西濃地区1位の大垣商高だ。美濃加茂高は、「想いを一つに、チームみんな」をモットーに確実に力をつけている1・2年生中心の若いチームだ。全員がキとなる選手であり、誰がコートに立っても一戦一戦全力でコートに思いをぶつけてもらいたい。大垣商高は、#4 岩田(大垣東中)の3Pシュートを中心に、スピードとシュート力を発揮して、一試合一試合丁寧に勝負し、チームオフェンス・チームディフェンスで、3年生最後の大会を精一杯頑張ってもらいたい。

# B

ブロックは激戦必至だ。まずは第4シードの岐阜農林高だ。岐阜地区総体で県岐阜商高を追い上げた戦いは本物だ。「ひたむきに練習する・仲間を大切に作る・礼儀正しく行動する」信条は、コートを走り回る彼女たちの姿に溢れ出ている。#4 今井(東白川中)を中心にチームが一つになり、#7 岩佐(大垣西中)と#9 矢吹(大野中)の1対1、大黒柱の#5 石丸(長良中)のリバウンド、#8 長縄(桜丘中)と#11 大澤(清流中)のポストプレー、オールラウンダーの#6 山本(穂積中)と#13 森(池田中)の内外角のシュートで、試合を見ている観客に感動と勇気を与えてくれること間違いなしだ。

対抗するは、シード校の岐阜総合高だ。声の量と質は、コート内だけでなくベンチからのこだわりを感じる。#4 棚瀬(穂積中)の身体能力を活かしたプレーや、#5 桜谷(川島中)のスピードや、#6 桜谷(川島中)の粘り強いディフェンスで、会場を総合コートに染め勝利を掴んでももらいたい。そして、シード権の奪取と上位進出を狙っているのが、岐阜城北高だ。ここ一番の勝負強さとオールラウンドプレイヤーの#4 野村奈(清流中)と#8 野村亜(清流中)の姉妹の連携プレーを中心に、#11 村瀬(三輪中)の巧みなゲームメイクから#10 堀江(真正中)が得意の3Pを決め、急成長してきた1年生達が爆発することができれば、上位争いに食い込んでくる可能性は大だ。飛騨地区3位の飛騨高山高は、ポイントガードである#4 川崎(古川中)、シュート力に期待できる#5 山口(古川中)を中心に、初戦から力を出し切り、シード校撃破に向けて熾烈な戦いをしてもらいたい。

また、東濃地区3位の多治見西高は#4 増本(北陵中)の的確なパスで相手のディフェンスを切り崩し、#7 後藤(小泉中)の激しいディフェンスとパワフルなドライブでチームのムードを上げ、#10 吉田(西可児中)の力強いインサイドプレーで、幸先

の良いスタートが切れるか。西濃地区3位の大垣北高は、攻守の要としてチームの士気を高める#4 伊藤(神戸中)を始め、サイズはないが十分な経験値を持ち、球際の判断力とメンタルの強さが魅力の#6 森上(大野中)、華奢な体ながらクイックに優れている#10 由井(西部中)で、上手く流れを掴み、勝利に近づけるか楽しみだ。また、西濃地区2位の大垣南高は、#4 曾我(不破中)の大きな弧を描いてゴールに吸い込まれていくシュート力と、#6 山口(不破中)のディフェンスを翻弄するトリプルワークやステップワーク、#7 川口(垂井北中)の絶妙なタイミングのカッティングで相手を翻弄する走りなど、内外のバランスが良いチームだ。どのチームも一丸となりシード校に立ち向かってもらいたい。

**C** ブロックは第3シードの高山西高が最有力候補である。岐阜阜商高と同じく、インターハイ予選7回、選抜大会7回の合計14回もの準優勝で全国大会への道の厳しさを知っているチームだ。

対抗には、どこが出てきてもおかしくない。まず、インターハイで、シード校を下しベスト8に入った飛騨地区4位の斐太高だ。小柄ながらスピードを活かして相手をかき回す#4 都竹(中山中)を中心に、チームディフェンスで戦ってくるだろう。飛騨地区2位の益田清風高も勢いに乗ると恐ろしい。スピードを生かした速い展開のプレーと、ボールをとコートを追いかける粘り強さを武器に、#4 中島(金山中)を司令塔にどんな相手にも立ち向かい、力強いプレーでゲームの流れを掴んでもらいたい。「諦めないバスケット」を信条としている各務原西高も負けていない。真面目で努力家の#4 堀部(桜丘中)のキャプテンと、#6 時田(長森南中)のポストプレーで、上位8を狙ってくるはずだ。

**D** ブロックを制するのはやはり土岐商高だろう。今年のチームも「互いを思いやる気持ちを持ち、とにかく走るバスケット」を大切にしてきた。#4 稲妻(駄知中)の視野の広さと、仲間を生かしたパスワークにより、司令塔としてゲームを組み立て、#5 山下(苗木中)の確実なシュート力と堅実なプレーを生かし、#6 三好(西陵中)の走力で速攻の要として相手をかき回してもらいたい。全力を尽くし、彼女たちが強靱な精神力を身につければ、頂点に立つことも十分に考えられる。

対抗は、長良高だろう。粘り強いディフェンス速い展開のバスケットを目指し、一戦必勝で勝ち上がってもらいたい。シュート力のある#4 平田(長森南中)を中心に、#6 林(梅林中)のスピード溢れるプレイから、小柄ながらインサイドの起点となる#8 奥田(笠松中)に期待がかかる。個々の能力は決して高くないが、鍛え積み上げられたものが、どこまで発揮することができるのか楽しみである。中濃地区1位の東濃実高がどこまでシード校に迫れるのかも注目だ。「進取・基本に忠実」を部訓に掲げ、#5 松枝(蘇南中)の柔らかなカットインとアウトサイドシュート、#12 安富祖(東中)のコート内外でのリーダーシップ、#13 松岡(川辺中)の3Pの正確性で、上位を目指す注目チームの一つとして活躍してもらいたい。

中濃地区3位の関商工高はサイズやスピードが無い分、平面と空間を活かし、上位を狙ってくださる。#4 細川(八幡中)のスピードとジャンプ力を生かして相手チームへ切り込みをかけ、どんなチームにも臆するコートなく立ち向かってもらいたい。岐阜高も#4 林悦(陽南中) #5 林恭(陽南中)の息の合った双子の連携プレーと、#7 溝口(北方中)が攻守の柱として活躍する。まずは一回戦での一勝が肝心となるだろう。

3年生最後の大会なだけに、ゲームの勢いに乗ったチームが強い。男女ともにその波をうまくつかむのはどこなのか、是非会場に足を運んでいただき、コート外の雑音を打ち消すほどに一生懸命な選手の、今持てる全力プレーに注目していただきたい。